

牛久：学校周辺に見る自然

第28号 牛久二小

2014年1月23日発行

＜ 秋の生きもの観察 ⑥秋（～冬）に咲く花 ＞

11/6、牛久二小4年生と秋の校庭観察。今回から植物。まずは秋（～冬）の花から。



秋にはキク科の花を多く見かける。セイタカアワダテソウ(左)やハキダメギク(右)もそう。

秋には、キクの仲間の花をよく見かけます。花だんだけでなく、校庭の雑草にも、セイタカアワダテソウの黄色い花が目立ちますね。また花だんの中やビオトープのまわりなどでは、ひっそりとハキダメギクのかわいい花が咲いていました。じつはこの花は6月ころからずっと咲いていたのですが、夏には他の花が多くて、みつを吸う虫たちの他にはあまり気づかれることはありませんでした。それにしても、かわいい花なのに気の毒な名前をつけられました。



秋から冬にかけて咲くシロダモ(左)とヤツデ(右)。ハチはもうほとんど見られず、ハエやハナアブが多く訪れる。

たくさんつぼみをつけたり、花の咲き始めの木もありました。シロダモはその名の通り葉のうらが白いので覚えやすいですね。ちょうど花が咲き始め、ハナアブが来ていました。赤い実も熟し始めていました。「天狗のうちわ」という別名もあるヤツデも、覚えやすい木ですね。つぼみをたくさんつけていました。これも冬にかけて咲き、ハエやハナアブがみつをなめにたくさん集まります。



逆に、本来夏を中心に咲くのですが、花期が長く、まだ咲き残っていたものもありました。サルスベリの熱帯をおもわせるようなピンクの目だつ花が、熟した実や紅葉にまじって咲いているのはおもしろいと思いました。サルスベリは漢字で「百日紅」と書きますが、まさに100日にもわたって次々と咲き続けます。

アベリアも花期が長く、6月ころから12月近くまで咲いています。この日はトラマルハナバチがみつを吸いに来ました。

メマツヨイグサも、熟した果実の下の方では花を咲かせていました。7～9月ころに咲く花ですが、熟した果実の下の方で、花を咲かせていました。

【理科支援員：宮内】

夏を中心に花期が長く、まだ咲き残っていたサルスベリ(上)、アベリア(左下)、メマツヨイグサ(右下)。